

作成日 2010/12/17
改訂日 2020/06/25

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	サンプラントマイルド
製品コード	1124053110000
整理番号	kankyo2189-7
供給者の会社名称	日産化学株式会社
住所	東京都中央区日本橋2-5-1 日本橋高島屋三井ビルディング
担当部門	化学品事業部 ファインケミカル営業部
電話番号	03-4463-8150
FAX番号	03-4463-8158
緊急連絡電話番号	03-4463-8150

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	酸化性固体 区分2
健康有害性	急性毒性（経口） 区分4 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 区分1 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分1 特定標的臓器毒性（単回ばく露） 区分2（神経系） 特定標的臓器毒性（単回ばく露） 区分3（気道刺激性）
環境有害性	水生環境有害性（急性） 区分1 水生環境有害性（長期間） 区分1 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険有害性情報

危険

H272 火災助長のおそれ：酸化性物質
H302 飲み込むと有害
H314 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
H335 呼吸器への刺激のおそれ
H371 神経系の障害のおそれ
H400 水生生物に非常に強い毒性

注意書き

安全対策

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。
(P210)
衣類及び他の可燃物から遠ざけること。(P220)
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280)
取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
粉じんを吸入しないこと。(P260)
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。(P260)
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)
環境への放出を避けること。(P273)

応急措置

火災の場合には、適切な消火剤を使用すること。(P370+P378)
飲み込んだ場合、気分が悪いときは、医師に連絡すること。(P301+P312)
飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

(P301+P330+P331)

皮膚又は髪に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ又は取り除くこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。(P303+P361+P353)
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。(P363)

吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)

直ちに医師に連絡すること。(P310)

特別な処置が必要である。(P321)

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)

ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。(P308+P311)

漏出物は回収すること。(P391)

保管

施錠して保管すること。(P405)

廃棄

容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。(P403+P233)

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法番号	安衛法番号	
ジクロロイソシアヌル酸ナトリウム	25%	C ₃ Cl ₂ N ₃ O ₃ Na	(5)-1043	既存	2893-78-9
メタケイ酸ナトリウム	30%以下	Na ₂ SiO ₃	1-508	公表	6834-92-0
ビルダー	30%以上	情報なし	有	公表	有
キレート剤	5.0%以下	情報なし	有	公表	有
調整剤	5.0%以下	情報なし	有	公表	有
ポリオキシアルキレンアルキルエーテル	5.0%以下	情報なし	(7)-97	既存	有

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 情報なし

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。

眼に入った場合

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

直ちに医師に連絡すること。
口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
直ちに医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

消火剤

大量の水

使ってはならない消火剤

粉末消火剤、泡消火薬剤。

特有の危険有害性

火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

<p>人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置</p>	<p>関係者以外は近づけない。 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。 作業者は適切な保護具（『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。</p>
<p>環境に対する注意事項</p>	<p>河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。 大量の水で希釈する場合、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。</p>
<p>封じ込め及び浄化の方法及び機材</p>	<p>危険でなければ漏れを止める。 乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って容器に移す。 漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。 大量の漏洩物の除去や廃棄処理の場合は専門家の指示による。</p>
<p>二次災害の防止策</p>	<p>すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 可燃物（木、紙、油等）は漏洩物から隔離する。</p>

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱注意事項

周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
眼に入れないこと。
吸入、飲み込みをしないこと。
皮膚との接触を避けること。
取扱後は、手、顔等を良く洗い、うがいをする。
可燃物や酸化されやすい物質との混触を避けること。
高温、直射日光を避ける。
容器は丁寧に取扱い、衝撃を与えたり、転倒させない。
環境への放出を避けること。

『10. 安定性及び反応性』を参照。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。

接触回避 衛生対策

保管

安全な保管条件

直射日光を避け、低温で換気のよい場所で保管する。
『10. 安定性及び反応性』を参照。
冷所、換気の良い場所で保管すること。
容器は直射日光や火気を避けること。
熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。禁煙。
燃焼性物質及び可燃物から離して保管すること。

安全な容器包装材料

情報なし

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策

工程の密閉化、局所排気その他の設備対策を使用する。
本製品を貯蔵又は使用する設備は、眼洗浄施設及び安全シャワーを設置したほうがよい。

保護具

呼吸器の保護具

情報なし

手の保護具

保護手袋を着用すること。

眼の保護具

眼の保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具

保護衣、顔面用の保護具を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

外観

物理的状态

その他

形状

粉体

色

白色

臭い	僅かに特異臭
臭いのしきい(閾)値	データなし
pH	情報なし
沸点、初留点及び沸騰範囲	情報なし
引火点	データなし
燃焼又は爆発範囲	
下限	データなし
上限	データなし
n-オクタノール/水分配係数	情報なし
自然発火温度	情報なし
動粘性率	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし
化学的安定性	乾燥状態では安定。水に溶解すると次亜塩素酸を生じる。 加熱すると分解する。
危険有害反応可能性	強力な酸化剤であり、可燃性物質や還元性物質と反応する。 アンモニア、アミン、酸化剤、還元剤、可燃性物質、強酸、強アルカリ、次亜塩素酸ナトリウム、次亜塩素酸カルシウムとの接触に注意する。
避けるべき条件	高温、直射日光、湿気。
混触危険物質	アンモニア、アミン、酸化剤、還元剤、可燃性物質、強酸、強アルカリ、次亜塩素酸ナトリウム、次亜塩素酸カルシウム。
危険有害な分解生成物	塩素、塩化水素、一酸化炭素、三塩化窒素及び窒素酸化物などを発生する可能性がある。

11. 有害性情報

急性毒性	情報なし
皮膚感作性	データなし

12. 環境影響情報

生態毒性	情報なし
オゾン層への有害性	データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
汚染容器及び包装	関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

14. 輸送上の注意

国際規制	
海上規制情報	IMOの規定に従う。
UN No.	3085
Proper Shipping Name	OXIDIZING SOLID, CORROSIVE, N. O. S. (Metasilicate soda, mixture)
Class	5.1
Sub Risk	8
Packing Group	II
Marine Pollutant	Applicable
Transport in bulk according to MARPOL 73/78, Annex II, and the IBC code	Not applicable

航空規制情報	I C A O / I A T Aの規定に従う。
UN No.	3085
Proper Shipping Name	OXIDIZING SOLID, CORROSIVE, N. O. S. (Metasilicate soda, mixture)
Class	5. 1
Sub Risk	8
Packing Group	II
国内規制	
陸上規制	特になし
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
国連番号	3085
品名	その他の酸化性物質 (固体) (腐食性のもの)
国連分類	5. 1
副次危険	8
容器等級	II
海洋汚染物質	該当
MARPOL 73/78 附属書II 及びIBC コードによるばら積み輸送される液体物質	非該当
航空規制情報	航空法の規定に従う。
国連番号	3085
品名	その他の酸化性物質 (固体) (腐食性のもの)
国連分類	5. 1
副次危険	8
等級	II
緊急時応急措置指針番号	140

15. 適用法令

船舶安全法	酸化性物質類・酸化性物質 (危規則第3条危険物告示別表第1)
航空法	酸化性物質類・酸化性物質 (施行規則第194条危険物告示別表第1)
港則法	その他の危険物・酸化性物質類 (酸化性物質) (法第21条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表)
海洋汚染防止法	海洋汚染物質 (施行規則第30条の2の3、国土交通省告示)

16. その他の情報

その他	この情報は新しい知見により改訂されることがありますのでご了承ください。ここに記載された情報は、当社で調査できる範囲の情報であり、情報の正確さは保証するものではありません。化学品には予見できない有害性がありうるため取扱いには細心の注意を払ってください。本品の適正な使用については、使用者において行ってください。
-----	--